

医学部看護学科 カリキュラムマップ(令和7年度入学者用)

DP	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次
a 言語運用能力	基本的知識を修得する		コミュニケーション能力を修得する	
	情報リテラシー 大学入門ゼミ 外国語 (Communicative English 1～IV)		専門分野におけるコミュニケーション能力を実践に活かす	
b 知識・理解	教養・基本的知識を修得する		専門的な知識・技術を修得する	
	専門分野の総合的実践力を培う		専門分野の総合的実践力を培う	
c 課題解決力・問題探求力	基礎的問題解決法を学ぶ		専門分野の理解を深める	
	演習・実習を通して、実践力を養う		具体的課題に取り組み総合的実践力を高める	
d 倫理的・社会的責任	ライフデザイン 健康・スポーツ		対象者となる個人を擁護する姿勢を身につける	
	専門職として生涯にわたり研鑽する姿勢を身につける		専門職として生涯にわたり研鑽する姿勢を身につける	
e 地域理解	地域社会に関心をもつ力を高める		地域医療に貢献する姿勢を身につける	
	地域医療に貢献する姿勢を身につける		地域医療に貢献する姿勢を身につける	
	学問への扉	学問基礎科目	広範教養教育科目	高度教養教育科目
	形態・生理学A (生命維持の 基本構造) 基礎臨床科学 生化学 栄養学	形態・生理学B (環境適応と行動) 分子生物学 免疫学 病態病理学	微生物学総論 疾病論Ⅰ 疾病論Ⅱ	看護薬理学 疾病論Ⅲ 疾病論Ⅳ 微生物学各論A 微生物学各論B 疾病論Ⅴ
	医療保健学 看護学概論	医療保健学入門 看護学概論	社会福祉・社会保障論 看護と法規	看護と法規
	基礎看護学 看護学概論	看護理論 基本援助技術論	生活援助技術論 基礎看護技術論	生活援助技術論 基礎看護技術論
	生涯発達看護学 地域生活看護学	成人看護学概論 老年看護学概論 精神看護学概論	小児看護学概論 母性看護学概論 精神看護学概論	老年保健対象論 小児保健対象論 精神保健対象論 成人慢性期・終末期援助論
		在宅看護学概論 在宅対象論	家族看護学 老年援助論 成人急性期・リハビリテーション援助論	地域看護学概論 公衆衛生学 精神援助論
		養護教諭課程 教職に関する科目	養護概説	養護概説
			学校保健	学校保健
			母性保健対象論 母性援助論	小児援助論
			療養継続看護実習 老年生活援助実習 老年看護学実習 小児看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習 在宅看護学実習	がん・緩和ケア論 スピリチュアルケア論 さぬき地域包括ケア論
			基礎看護学 看護管理学	基礎看護学 看護管理学
			臨床高度実践技術論 防災・災害看護	臨床高度実践技術論 防災・災害看護
			健康相談活動 教育実践演習C 養護実習	健康相談活動 教育実践演習C 養護実習
			教職実践演習	教職実践演習

全学共通科目 養護教諭課程(教職に関する科目の履修が必要)

ディプロマ・ポリシーの各項目の達成は、以下に示す体系的教育をもって実現します。

①言語運用能力

全学共通科目の外国語により基礎となる語学力向上を図り、続いて学部開設科目において、グループワークを基礎として対人関係に必要な基本的なコミュニケーション力を身につけます。さらに、基礎看護学実習、領域別実習、統合実習において、臨床に必要なコミュニケーション力を段階的に身につけ、また、チーム医療の中で、多職種と協働・連携できる能力を身につけます。国際的視野に立った高度なプレゼンテーション能力養成のために、少人数による「既修外国語」を1年次より2年次まで連続して受講することにより、英語運用能力を獲得します。

②知識・理解（21世紀型市民及び学士（看護学）として）

人間理解に必要な幅広い視野と知識の獲得のため、全学共通科目（主題科目、学問基礎科目）を学び、さらに医学・看護の基本的知識を修得するために、1、2年次に専門基礎科学並びに基礎看護学の科目を履修します。その後2年次後期から看護の専門科目（成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、在宅看護学、地域看護学）を履修します。また、養護教諭課程は2年次から履修します。講義はグループワークを取り入れた講義・演習形式で行われ、看護学における専門知識と技術を修得し、総合的な実践力を培います。

③問題解決・課題探求能力

全学共通科目の「大学入門ゼミ」において基礎的な問題解決法を学び、2年次の基礎看護方法論と基礎看護学実習により、看護専門分野の理解を深めます。3年次には各領域別の演習・実習をとおして探求力を養います。看護学実習は少人数のグループで実施し、対象者の健康問題を解決するために、看護問題を明確にして看護過程を展開し、問題解決・課題探求能力を身につけていきます。4年次には統合実践看護学をとおして、具体的な課題に取り組み総合的な実践力を高めていきます。さらに「看護研究」では、学生の志向に沿った領域を選択して、保健医療に係わる看護テーマを見出し、質的量的な分析方法を用いた論文作成をPBL（Problem Based Learning）型教育により実施し、問題解決・課題探求能力の向上を図ります。

④倫理観・社会的責任

全学共通科目の「ライフデザイン」において21世紀型市民としていかに生きるかを学び、看護専門教育を受けた上で3、4年次からの「看護倫理」や「統合実習」を含む統合実践看護学の科目を履修することで、看護学における倫理観を身につけ、かつ社会的責任の自覚を養います。またグループワークを取り入れた講義形式と少人数グループによる志向領域での統合実習をとおして、看護学における倫理観・社会的責任をより深く理解し、身につけ、さらに専門職として生涯にわたり研鑽に努める姿勢を培います。

⑤地域理解

全学共通科目の「ライフデザイン」や「特別主題（地域）」において地域理解への動機づけがなされ、看護専門教育を受けた上で、2年次からの地域生活看護学の科目を履修することで地域保健医療の課題と解決方法を理解します。これら地域理解科目では、講義の目的に応じて講義、グループワーク、フィールドワーク、実習など様々な教授方法を取り入れ、より実践的に地域の課題を理解します。